第 8 号
2004年9月
早稲田大学校友会　目黒稲門会
発行人：加藤榮護　編集長：藤岡長世　事務局長：岩崎正夫
ＴＥＬ：03-5723-8156　ＦＡＸ：03-3716-4020

目黒稲門会会報

第５回定時総会開催

2004年7月11日(日)、目黒雅叙園において、第五回目黒稲門会定時総会が開催されました。
第1部　定時総会では、真仁田会長の挨拶につづき、江夏副総長が「大学の近況について」、広瀬調査役が「募金事業について」説明がありました。議長に中沢副会長を選出し、議事開始。全体（イベント&日常報告）報告、各部会（囲碁、ゴルフ、麻雀、カラオケ、ダンス、旅行、グルメ、美術歴史鑑賞）活動報告、三土会活動報告、そして6月23日に開設した当会の公式ホームページが披露されました。
決算・監査報告承認のあと、事業計画案・予算の提案がなされました。そして早稲田大学へ125周年記念募金を寄贈いたしました。
また総会を機に、創立期に大きな力となってくださった眞仁田会長、阿部副会長、中沢副会長が勇退され、前事務局長の樋口氏も幹事を退任されました。そして新しく、加藤会長、市瀬・井村・大野・八幡副会長が就任されました。
来賓として、大学から江夏副総長、廣瀬調査役。大田稲門会・松本常男会長、世田谷稲門会・鈴木宏治副会長、品川稲門会・桜井輝隆会長、港稲門会・裏辻様、目黒三田会・向井田敬之様、皆様においでいただきました。
引続き第2部・懇親会が開催されました。梁瀬会員の率いる、ナレオ・ココナッツプランテーショントリオのハワイアン演奏、そして美しいお嬢さん達のフラダンスで雰囲気も最高潮。演奏に合わせてダンスの腕前も披露するメンバーも大勢いらっしゃいました。
和気藹々の時間は瞬く間に過ぎ、伏見幹事のリードで肩を組み、大きな輪になって「都の西北」を斉唱し散会となりました。

新旧会長の握手

加藤新会長

出席者名簿

浅海敏之、安部幾雄、阿部喜久雄、阿部雅子、荒瀬修一郎、安藤虎雄、伊藤悠、伊藤源喜、井村正陽、岩崎正夫、海口昭治、榎本茂、大竹一子、大野利幸、大野幸子、大山高明、岡田鐘吾、小川裕正、海沼美智子、加藤榮護、加藤玲子、川崎真樹子、川辺忠俊、岸猛弘、桑野祐光、郡山弘文、島田久家、杉田則弘、鈴木正明、外岡明、外岡ルリ子、田島順一郎、土川俊雄、都築秀行、永井純一郎、中上美代子、中沢信平、中西千可子、林田雅敏、林田敞子、樋口定広、土方正巳、平沢栄夫、藤岡長世、伏見和則、星野聡史、松尾洋一、松岡雅敏、真仁田勉、水野弘文、村山弘、森家一三、保井正、梁瀬陽太郎、梁瀬康子、山口一男、八幡和三郎、横山大、渡辺明久

懇親会で校歌を斉唱

6年目を迎え新体制でスタート

加藤新会長のあいさつ

この度、真仁田会長の後を受けて、目黒稲門会の会長に就任することとなりました。
大変名誉あることだと、聊か緊張いたしております。

副会長、幹事長等執行部役員を始め、会長各位のご協力を頂き、我が稲門会の現在の和気藹々とした雰囲気を更に盛り上げて行きたいと思っています。

元々、小生が目黒稲門会に出席しましたのは、この会の発会より2年くらい遅れた2001年の総会の時からであります。外岡大先輩、隣の市瀬さんたちのお誘いを受けました。

小生はその前年の春先に脳梗塞を患いまして、約1月半の療養で殆ど全快いたしましたが、70歳の坂を越える時でありましたので、40年以上に亘るサラリーマン生活に終止符を打ちました。それからは、天下晴れて自由の身となり、毎日が日曜日の身分を謳歌することとなりました。

振り返りますと、小生は早稲田大学に6年間お世話になりました。社会人となってからは、情報化時代の波に乗って会社も発展し、特に早稲田の卒業生が増え、職域稲門会も1600人を超える大集団に成長しました。

こうなると、下手をすると社内に学閥の弊害が心配される様な事態もあり、職域稲門会もあまり派手には出来ないような雰囲気もありました。

しかし、我が目黒稲門会の会員にはもっともっと拡大の余地があります。若者は勿論、60歳以上の会員が増えることが大切だと感じています。

若者は、文字通り今現役、社会に貢献するには職場が中心であろうかと思います。60歳以上は新現役という新しいジャンルを切り開く場として、共に目黒稲門会を活用したいと思います。

高齢者が生き生きとした生活を送ることこそが、今の社会に求められているのではないでしょうか。

本日は、母校、各地区の稲門会の会長のご来駕を頂き本当に有難うございました。改めて、感謝申し上げたいと思います。

最後に、早稲田の栄光と、ご出席の皆様のご健勝をお祈りします。

目黒稲門会　会長　加藤　榮護

新役員一覧

●顧問
小山宙丸、星野聡史

●相談役
阿部喜久雄(新任)、荒瀬修一郎、桜井輝隆、佐藤嘉剛、品田一良、中沢信平(新任)、樋口定広(新任)、真仁田勉(新任)

●会長:加藤栄護(新任)

●副会長:市瀬達夫(新任・会計)、井村正陽(新任)、大野利幸(新任)、大山高明、海沼美智子、鈴木正明、都築秀行、八幡和三郎(新任)、横山大、渡辺三郎

●幹事
浅海敏之、安藤虎雄、石川智子(新任)、伊藤源喜(新任)、市瀬一江、岩崎正夫(事務局)、海口昭治、榎本茂(新任)、大竹一子、岡田鐘吾、小川裕正、岸猛弘、桑野祐光、郡山弘文、小林一光、島田久家、田島順一郎(新任)、土川俊雄、田哲基、外岡明、永井純一郎、中上美代子、中西千可子、藤岡長世、松岡雅俊、松原進一、森家一三、保井正、山口一男、吉田博行(新任)、脇坂誠也、渡辺太郎

●監事
林田雅敏、土方正巳

目黒稲門会第5期　決算報告書

(平成15年4月1日～平成16年3月31日)(単位=円)

	科目	決算	予算	備考
収入	前期繰越金	742,100	742,100	
	年会費(1)	660,000	755,000	
	総会収入	735,000	600,000	
	新年会収入	580,000	600,000	
	組織強化補助金	184,000	180,000	校友会より
	稲門祭収入	180,878	0	
	納涼会収入	300,000	0	
	雑収入	34,889	0	
	合計	3,416,867	2,877,100	

支出	会議費	33,100	30,000	役員会等
	総会費	567,333	600,000	
	新年会費	507,175	600,000	
	部会運営費	160,000	70,000	
	会報費	270,000	330,000	印刷費等
	交際費	230,016	250,000	他稲門会、校友会等
	事務用品費	93,892	70,000	封筒作製、コピー費等
	通信費	128,045	130,000	郵送費等
	稲門祭支出	259,518	0	
	納涼会支出	291,000	0	
	雑費	60,565	50,000	振込手数料等
	次期繰越(2)	816,223	747,100	
	合計	3,416,867	2,877,100	

注(1)年会費
当期会費128名　640,000円
会費2年分2名　20,000円
合計　660,000円

注(2)　次期繰越金の内訳は、普通預金781,703円、郵便貯金34,520円

注(3)　稲門祭福引券は収入支出とも1,250,000円。東京23区支部大会会費は収入支出とも220,000円。別会計で処理した。

監査報告書

私たち会計監事は、平成15年4月1日から平成16年3月31日までの第5期会計年度の会計報告を監査いたしました結果、適正かつ正確であることを認めます。

平成16年5月20日
目黒稲門会　会計監事　土方正巳　印
会計監事　林田雅敏　印

目黒稲門会　第6期予算

(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

収入の部(単位=円)

科目	金額	備考
前期繰越金	816,223	
年会費	700,000	5,000円×140名
総会収入	700,000	10,000円×70名
新年会収入	600,000	10,000円×60名
組織強化補助金	184,000	校友会より(部会運営費・通信費・会報作成費に充当)
合計	3,000,223	

支出の部(単位=円)

科目	金額	備考
会議費	30,000	役員会等
総会費	700,000	
新年会費	600,000	
部会運営費	80,000	ゴルフ、囲碁、カラオケ、麻雀、ダンス、美術、旅行、グルメ
125周年記念募金	500,000	
会報費	300,000	印刷費等
ホームページ費	100,000	
交際費	250,000	他稲門会、校友会等
事務用品費	100,000	封筒作製費等
通信費	130,000	郵送費等
雑費	50,000	振込手数料等
次期繰越金	160,223	
合計	3,000,223	

目黒稲門会会則

第1条　名称

本会は目黒稲門会と称する。

第2条　目的

本会は、会員相互の親睦、交流を図るとともに、早稲田大学校友会との連絡を密にし、早稲田大学の発展ならびに目黒区の地域社会に寄与することを目的とする。

第3条　事業

前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。

1. 会員相互の親睦を図るための事業
2. 会員の啓発に関する事業
3. 早稲田大学および早稲田大学校友会の発展に寄与する事業
4. 地域社会の発展に寄与する事業
5. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第4条　事務局

本会の事務局は目黒区内に置く。

第5条　会員資格

1. 目黒区内に在住するか、目黒区内の各職域に勤務する早稲田大学校友
2. 目黒区以外に在住する校友で、会員から推薦のあった校友

第6条　役員

本会は、次の役員を置く。

会長:1名、副会長:若干名、幹事長:1名、副幹事長:1名、事務局長:1名、幹事:40名以内

監事:2名

第7条　役員の選任

1. 会長、副会長、幹事、および監事は、総会において会員の中から選出する
2. 幹事長、副幹事長、事務局長は、監事の互選による
3. 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし会長職については、2期を限度とする
4. 第3項ただし書の規定にかかわらず、会の基盤強化のため、初代会長職の任期は、3期とする

第8条　役員の職務

1. 会長は本会を代表し、会務を統括する
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、会長の職務を代行する
3. 幹事長は会長を補佐し、会務の執行を行う
4. 副幹事長は会長、幹事長を補佐し、会務の執行を行う
5. 事務局長は会の事務を統括する
6. 幹事は会の事業計画の企画、立案を行い、その執行について幹事長、副幹事長と協議し、会務を処理する
7. 監事は本会の会計監査を行い、総会において報告する

第9条　顧問・相談役

本会の発展のため、顧問(大学関係者)ならびに相談役(当会役員経験者など)を置くことができる。

顧問、相談役は、役員会の推薦により、会長が委嘱する

第10条　総会

1. 総会は会長が召集する
2. 提示総会は毎年1回とし、事業年度終了後6ヶ月以内に開催する
3. 臨時総会は会長が必要と認めたとき、または会員20名以上の請求があったとき開催することができる
4. 決議は出席者の過半数をもって成立する

第11条　役員会

1. 役員会は、会長、副会長、幹事長、副幹事長、事務局長および幹事、ならびに監事をもって構成し、事業運営を協議、執行する
2. この会則に定めのない事項については、役員会において協議決定する
3. 幹事追加に関しては、役員会に一任する

第12条　会計・口座

本会の運営経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充当する。本会口座を目黒郵便局に設ける

第13条　会費

1. 本会の会費は年額5000円とする。ただし卒業後5年未満の校友は、年額3000円とする
2. 当該年度において、10月1日以降に入会した校友の会費は、前項に定める会費のそれぞれ2分の1とする

第14条　事業年度および会計年度

本会の事業年度および会計年度は、4月1日より翌年3月1日までとする。執行日は平成12年4月1日とする。平成11年度の会計年度は、本年3月31日まで、15ヶ月となる。

第15条　会則の改廃

会則の改廃は、総会出席者の3分の2以上の承認を得なければならない。

附則1:本会則は、平成11年1月30日から施行する。

附則2:第7条第4項の規定は、平成17年3月31日をもって消滅する

[空　往　満　帰]（3）

― 外岡茂十郎の軌跡 ―

外　岡　　明（26年理工・電）

⑨終戦

昭和20年8月15日　焦土と化した日本列島を真夏の太陽が照り付けていた。

正午、戦争終結の詔勅が下され、日本の新しい歴史の幕が開いた。

照明設備の鉄骨は供出で姿を消し、空襲で飴の様に曲がったバックネットは、赤錆となって無残にもグランド内側に垂れ下がってはいたが、戸塚球場は残った。そこからバットの快音が響き始めたのは、敗戦後2ヶ月も経たぬ10月初旬であった。

選手生活の根城となる合宿所は、飛田さんの指示で若い部員数人が住んでいたので、強制疎開や軍部の接収から免れ、そして焼け残った。そのお陰で早稲田の野球部は、いち早く復員選手を迎えてチーム編成をし、復活のスタートを切ることが出来た。

もう一つ特筆すべきは、飛田さんの慧眼である。

昭和18年秋頃のこと。いつもの様にグランドに現れ、じっと練習を見守っていた飛田さんは、隣にいるマネージャーの相田さんに「ボールを何とかしておかにゃいかんだろうね。」と声をかけた。相田さんは思い切って「百ダースぐらい買っておきましょうか。」と大きな数字を言った。飛田さんは静かに首を横に振り「さしずめ三百ダースほど」。相田さんは耳を疑った。「是非そうしてくれ。球がなくては野球はできない。防空壕の奥にでも、しっかししまっておけばいい。いつか必ず学生野球のために役立つ時が来るから」と、かなり厳しい語調での指示だった。

相田さんは直ちに、ボール300ダース、バット300本、ノックバット10数本を調達し、合宿所に保存した。この時期、皮製のボールは統制品で入手困難になっており、八方手を尽くしての入手であった。

合宿に残った数名の在校選手たちは、空襲の度に、これらを防空壕に運び込むなどの苦心惨憺して守った。戦後早稲田がいち早く練習を開始出来たのは、勿論このお陰であるが、相田さんは、大学野球再建に役立つということであるならばと云って、この秘蔵のボール・バットを惜しげも無く、用具不足に悩む他の大学の野球部に提供したのであった。

よって、六大学野球の立ち直りは、予想以上に早かったのである。

⑩野球復活第1陣　オール早慶戦

戦争の恐怖から解放されたものの、国民は日々食料、衣類、住居に事欠き、新聞の紙面にはヤミ市に衣食を求めて群がる人々の写真が載ったり、大陸で帰国の日を待ちわびている日本人の現況が紹介されたり、暗い世相を反映していた。そういう状況の中にあって、絶望に光を与える一役を担い始めたのが、皮肉にも戦時中、継子扱いされていた野球であった。

そういう中から、早慶どちらからとも無く、早慶戦をやろうという話が持ち上がった。

慶応は、復学した現役の選手のほかに、OBにも復員している人が多かった。一方、早稲田は、どう云う訳か、戦死された方がとても多かった。しかし、既に練習もしていたので、現役中心で試合が出来る状態にあったが、現役、OBともに参加したオール早慶戦を開催するということで、話が纏まった。

（六大学野球連盟に登録されていた、選手で戦没された方は、早稲田29名、慶応14名、明治13名、法政26名、立教20名、東京13名であった。）

開催日は、11月18日午後1時から、場所は神宮球場である。

神宮は、9月16日すでに進駐軍によって、米軍の娯楽施設として接収されていたが、米軍に交渉して使用許可を得、昭和17年の早立決勝戦以来、3年振りの神宮球場での試合となった。

当日は秋晴れの日曜日で、久しぶりに早慶相まみえるということで、内野席は昼前からすでに満員。外野席も殆ど満員で、入場者数4万5000人と報道された。

慶応は、現役の大島、別当のほかは、最近までリーグ戦で華々しく活躍したOBが大部分を占め、対する早稲田は現役選手7人、これを補うにOBという布陣であった。慶応が、白木をプレートに送れば、早稲田は昭和8年から12年まで早稲田のエースとして、輝かしい記録を残した若原にスタートさせて対戦した。スパイクが間に合わず、軍靴を履いて登板した若原は、出足極めて好調であったが、疲労するにつれて慶応の猛打を受け4回までに2点を奪われ、岡本と交代する。慶応の白木は健闘よく防戦、3対3のまま延長戦となる、しかし、13回裏慶応は、灰山、山下、土井、大館、別当、宇野などを繰り出して3点を入れて、6対3で全慶応の快勝となった。

慶応は、リーグ戦で鳴らした名選手を揃えたのに対し、早稲田はリーグ戦経験者は岡本ただ一人、といったあり様であったが、大いに善戦したとの評価である。

当時の朝日新聞は次のように伝えている、『内容は何であろうと早慶戦となれば大騒ぎで、朝から内野は忽ち満員、外野も七分通り埋めて4万5000人という観衆、早大は一塁、慶大は三塁側にそれぞれ応援席が陣取って昔通りの早慶戦気分を横溢させてファンを喜ばせる。急のチーム編成でエラーも多くゲームの内容は昔とは似ても似つかぬものであったが、その昔の名選手が多く出場し、わがスポーツ祭ともいうべき雰囲気には観衆も大満足の態であった』。

⑪リーグ戦復活

戦争に敗れた国民は、空腹とインフレに悩まされながら、みじめな正月を迎えた。それでも春の訪れが身近く感ぜられる様になると、リーグ戦の復活が各方面で議論される様になった。

しかし、現実は、合宿所が戦災にあい宿舎難に喘いでいる野球部もあれば、グランドを進駐軍に接収されて練習場に困っている野球部もある。また多数の未復員選手がいるため、チーム編成に悩んでいる野球部など様々な事情があった。

六大学野球の名誉と歴史を考えれば、各校9人揃えさえすれば、リーグ戦ができるといった安易な考えは許されない。間に合わせのいい加減なチームでリーグ戦を行うことは、六大学野球の自殺行為に等しかった。『先輩と現役の混成チームでリーグ戦を行い、現役が、精神的にも技術的にも鍛えられたところで学生チームによるリーグ戦を行うべきである』との強い意見も有力であった。

しかし、連盟理事長となった外岡は『学生野球は技量よりも、より以上に気迫に生き抜くべきもの』との考えと『負けても勝っても、先輩の手を借りず現役だけで試合をやりたい』と主張する学生の熱意に動かされ、現役による正規のリーグ戦の再建にこぎつけた。

◆戦後最初のリーグ戦は、昭和21年5月19日上井草球場でおいて、明・東戦で、熱戦の火蓋が切られた。

上井草球場は、六大学ファンにとっては、馴染みの無い球場であったが、それでも一日千秋の思いで待ちあぐんでいた人たちは、六大学野球の後を追って、この名もない郊外の野球場に集まってきた。

神宮球場は、接収後「ステート・サイド・パーク」と名を変え、日本人は

立ち入り禁止となっていた。
六大学OB戦、オール早慶戦の時は、使用許可を受けられたが、半年後の初リーグ戦では使用不許可の占領軍通達が出たのである。
このリーグ戦は各校総当り1試合の計15試合、前半の9試合は、土・日曜に上井草で、後半の6試合は、プロ野球の合間をぬって平日に後楽園で行うという変則的なものとなった。
復学した相田さんを「学生監督」として迎えた早稲田は、緒戦で法政を8対0で退けながら、立教には、延長15回の末1対2と敗れ、さらに東大にも0対1で惜敗した。
今期の躍進の目は東大であった。開幕戦で明治に12対5と大勝して波に乗り、早、立、法を連覇して、慶東戦で勝利すれば優勝となる。一方慶応も立、法、明に連勝して無敗。リーグ戦を盛り上げる一戦となった。慶応は左腕大島、東大は好調山崎の投げ合いとなったが、大島が東大打線を2安打で完封し、1対0で慶応が辛勝した。

そして慶応有利で迎えた早慶戦は、8時の開門に徹夜組まで出て、午前中に球場に押し寄せた観衆は6万人を越えた。そして数ヶ所の門が破られ群集がドッと乱入したため、観衆がスタンドからこぼれ落ちるという始末。何千人もの人々が元に戻れず、グランドに座り込んでしまった。これではプレーは出来ない。結局、両校の応援団がスクラムを組んで強引に客席に押し上げてから、やっとプレーボールとなった。

観衆の熱気の中で、早稲田・岡本忠之、慶応・大島信雄の投げ合いで始まったが、予想に反し早稲田が押し気味に進め0対0で迎えた5回、慶応は四球、犠打で二塁に進んだランナーが、早大バッテリーの意表をついて、三盗、本盗に成功すると、慶応の打棒は俄然活気ずき4対0で快勝、5戦5勝で春のリーグ戦優勝を果たした。そして第二位は大奮戦の東大、以下早明法立であった。

◆さて夏が過ぎ、秋のリーグ戦を迎えると、春のような1試合総当りという変則試合はやめて、各校総当りの2回戦、1勝1敗の時は決勝戦という、戦前の正常な試合方式に戻そうということに決まった。
しかも進駐軍の好意によって、全試合を神宮球場を使うことが許されたのである。そしてさらに、東京六大学野球連盟は、『天皇盃』御下賜の栄に浴した。
よってこの秋からのリーグ優勝校は、この天皇盃を拝受出来るのである。学生野球の再建に大きな明るさが与えられた。
秋のリーグ戦は、9月14日の慶立戦に始まり、10月27日の慶東戦まで、32試合行った結果、明治が7勝5敗、東大は4勝7敗、法政は3勝8敗立教は3勝9敗で、どれも優勝圏外に落ち、立教に1敗しただけで8勝1敗の早稲田が1位で、明治との決勝に敗れて、7勝2敗の慶応が早稲田を追っていた。
慶応が早稲田に連勝すれば、早稲田と同じ勝ち点4だが、勝率で慶応の優勝となる。もし1勝1敗となり、決定戦で慶応が勝てば、早稲田と同率となり、再度優勝決定戦を行うこととなる。
だから、早慶ともに負けられない、優勝を賭けての天下分け目の早慶戦となった。
この決勝は、いやが上にも満天下の耳目を集めて、11月2・3日に行われた。
両軍のフリー・バッティングが始まる頃には、観衆が内外野の通路まで埋め尽くすという盛況であった。一回戦も二回戦も、予想通り、早稲田が岡本をプレートに送れば、慶応は大島を送り、右と左の両投手の対戦となった。
一回戦早稲田は、1回裏、トップ蔭山が、2球目をいきなり左翼フェンスにノーバンドで当てる大二塁打で出ると、続く鶴田のバントが内野安打となり、二盗後、3番片山の中堅前安打で、先取点2点をあげた。慶応は2回、久保木の三塁打をスクイズの失敗で、また3回は、無死一・二塁のチャンスに投手の牽制球に刺されるという不覚から芽を潰したのに対し、早稲田は唯一のチャンスをものにして、2対0で先勝した。
二回戦は、早稲田に1、4、6回と三度、慶応には2、3、5、9回と四度チャンスがあった。慶応は、3回2死で二塁打の山県が、次打者増山の三塁ゴロを一塁手落球の間にホームを狙ったが、惜しくもタッチアウト。早稲田は、4回1死二・三塁のチャンスに、5番山村が左翼前打して二者を迎え入れた。早稲田は、結局この2点を岡本が守り抜き、一回戦同様2対0で連覇して、この秋のリーグ戦を10勝1敗で優勝した。
そして初の天皇盃は、岡本首相の手に燦然と輝いた。
岡本は、このリーグ戦11試合すべてに登板し完投10試合、立教に1敗を喫したものの10勝して、内7勝を完封で飾っている。(その内容は、無四球5試合、失点11点、被安打58、四球9、奪三振48)
さらに早立一回戦では、1回から9回まで3人ずつ片付けるという稀有の記録を樹てた。(3、5回にヒットと四球のランナーを出したが、いずれも、ダブル・プレーで退けている。)
しかも打っては、ランナーをおいて、戦後、六大学リーグ戦初のホームランを左翼中断に叩き込んでいる。後年外岡はこの試合の岡本選手について、こう述べている。
「この優勝は、全部員が春の敗戦に奮起して勝ち得たものであって、部員の一人ひとりの精神努力が、チームの血となり、肉となって、チームの総力として実を結んだものである。したがって、優勝はチーム全体の優勝であって、だれ一人この優勝を独占することは許さるべきではない。しかし、チームの主将であり、主戦投手であり、不動の四番打者である岡本忠之選手の活躍だけは、これを見逃す訳にはいかない。…[中略]…岡本は、卒業後間もなく病魔におかされ、若くして世を去ったが、この攻守両面にわたる岡本の大活躍は、その人柄とともに、長く後世の語り草となって伝えられていくことであろう」。

外岡野球部長

ゴルフ用語の話

島田久家（27年・商）

3年前の春、縁あって日本ゴルフ学会（本部・筑波大学内）のゴルフ教室（ゴルフルールの勉強会）を受講する機会に恵まれた。1回4時間、6回の勉強会であったが、ペンネーム、芝健太郎講師（NHK出身、ゴルフ史等の研究家）の巧みな話術の講義で、時間の経つのも忘れるほどであった。ルールが主体の会であったが、同時に英米では通用しない和製用語、用語の誤用、禁句といったものを多数指摘された上で、これらの用語類は日頃から正しい使い方をしていないと、いざ海外でプレーしたりあるいはプロのトーナメントを観戦したりするとき、つい口に出て思わぬ恥をかくことにもなりかねないので、くれぐれも注意するようにと強調されていた。

本稿では、そこで問題視された用語類に限って取り上げ、これらをあるプライベートコンペのスタートから、1番ホールアウトまでの中に例題として織り込み、順次紹介することとしたい。

（1）スタート前の幹事さんの説明

お早うございます。本日のコンペは前もってお知らせしたハンディキャップによる18ホールズ・ストロークプレーで行ないます。アウト・インとも最初のロングホール（1）でドライビングコンテスト、最初のショートホール（2）でニアピンコンテストを行います。スルーザグリーンは6インチリプレース（3）OKとします。

また、パッティンググリーン（以下グリーンと略称）でも、ワングリップ以内OKとします。その他はJGAゴルフ規則（4）並びに当コースのローカルルールに従ってください。アウト後パートナー（5）のスコアをチェックした上で、ご自身のスコアカードの幹事まで提出してください。なお、最終組はスリーサム（6）でお願いします。

最後になりましたが、ティーグランド（7）及び周辺での素振りや練習は危険ですので、特に注意して行なってください。ご健闘を祈ります。

（2）第1組のスタートから1番ホールのホールアウトまで

(イ) ティーショット

キャディさんより「オーナー（8）さん、ティーアップお願いします」と声がかかり、1番を引き当てたA氏がこれに応じ、慎重にアドレスして第1打をショットした。中弾道のみごとな打球がフェアウエイ中央に飛び出していったのを見て、キャディさんを始め参加者の皆さんから、大きな声で一斉にナイスショット（9）と賞讃の声がかかった。

次いでB氏とC氏はまずまずの当たりで、同じくナイスショットの声がかかったが、C氏はやや右に押し出し、フェアウエイ右側のクロスバンカー（10）につかまった。

D氏は左に引っ掛けて打球は隣のコースに飛び出していったため、キャディさんとD氏は大声で何回かフォアー（11）と叫び、その方向に注意を呼びかけた。

(ロ) セカンドショットからホールアウトまで

D氏はローカルルールに従い1罰打を払ってボールを拾い上げ、真横にプレー中のコースのラフに戻ってドロップ。スプーン（12）でグリーン近くまで飛ばして、9番アイアンでフォアオン（13）、これをツーパットでおさめてダブルボギーで上がった。

C氏は右のバンカーから7番アイアンでのショットがうまく当たり、グリーンエッジまで飛んで、パターで寄せスリーオン（14）。ワンパットで沈めてパーを拾った。

B氏は8番アイアンで打ち込み、大きなターフを飛ばして、見事にツーオン（15）。離れて見ていたキャディさんより「ターフをデボット（16）に戻して踏みつけておいてください」と声がかかり、B氏はそのとおり応じた。グリーン上でB氏は「軽いスライスライン（17）だな」とつぶやいて、ワンカップ左外側を狙い、見事にカップインしてバーディにおさめた。

A氏は9番アイアンで楽々ツーオン。キャディさんよりやや強いフックライン（18）なので、カップの右40センチを狙うようアドバイスされたが、うまく打てず、ツーパットして、パーでホールアウトした。

以上に括弧書きで番号を付した問題用語は、やや詳しく紹介したいところであるが、紙数の関係もありできるだけ簡略化したため、わかりにくい部分が出たかと思うが、ご容赦願いたい。

（1）ロングホール

（2）ショートホール（ミドルホール）

いずれも和製用語で英米では通用しない由、正しくはパー5ホール、パー3ホール（パー4ホール）と言うが、ミドルホールという用語に至っては、英米にはゴルフ用語としてこの言葉自体存在しない由であり、正しい使い方をするよう強調されていた。

（3）リプレース（プレース）

拾い上げたボールを元あった地点に戻すのがリプレース、別の地点に置くかまたは別のボールを初めのボールがあった地点に置くのがプレースである（JGAゴルフ規則第3章、プレーについての規則20－3）。幹事さんは正しくは6インチ以内プレースOKと言うべきであった。

（4）JGAゴルフ規則

問題用語ではないが、ゴルフプレーの基本となるものにつき一言触れさせていただきたい。日本のゴルフ規則は英国のR&A（ロイヤル・アンド・エインシェントゴルフクラブ・オブ・セントアンドリュース）と、米国のUSGA（全米ゴルフ協会）が共同して制定した英文の規則を、JGA（（財）日本ゴルフ協会）が翻訳して、日本のゴルフ規則と定めたものである。

各国とも同様にして制定し、その下でプレーし競技を行なっている。この規則は、第1章、エチケット、第2章、用語の定義（52項目）、第3章、プレーについての規則（34項目）、付属Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ及び裁定集からなり、複雑難解の個所が多い。なお4年ごと（オリンピック開催年）に見直し改定が行なわれる。2004年度は広範囲な見直しが行なわれるようである。

（5）パートナー（同伴競技者）

（6）スリーサム（フォアサム）

マッチプレーで、1人対2人、または2人対2人の組み合わせで、両サイドともそれぞれ1球をプレーする競技形式のことをスリーサムまたはフォアサムと言う（用語の定義44）。この場合、2人で組んで1球をプレーする者同士をお互いにパートナーであるという（用語の定義37）

これに対し、例題に挙げたコンペのストロークプレーでは、参加者全員がそれぞれストロークの数を争う敵である。たまたま一緒の組でプレーするプレーヤーは、パートナーではなく同伴競技者と言う（用語の定義13・16）。優勝者挨拶で「本日はパートナーに恵まれ…」などと誤用されるケースが多い。

（7）ティーグラウンド

これも和製用語で、正しくはティインググラウンドである（用語の定義48）。英米では簡略にティーと言っても通じる由である。

（8）オーナー

ご存じのとおりオーナー（OWNER）と言う人が意外と多いが、オナー（HONOR）である（用語の定義23）。

（9）ナイスショット

和製用語の代表格で盛んに使われているが、英米では禁句の由。飾り窓の女性が男性客を喜ばす隠語だそうである。ゴルフ場で1日中ナイスショットと連発されている光景を想像すると、芝講師ならずとも何とかならないものかと思うようになってきた。一般的にはグッドショット、グレートまたはスーパーショット、あるいは単にビューティフルファインと言えばよいようである。

（10）クロスバンカー

フェアウエイの両端にまたがり長々と存在するバンカーがクロスバンカーであるが、日本のゴルフ場にはほとんどない由である。フェアウエイ右側にあるバンカーは、正しくはフェアウエイバンカーである。

（11）ホァー

打球の飛行方向の前方に人がいる場合、キャディさんやプレーヤーがその方向に大きな声でホァーと叫び注意を喚起するが、これには日本人に厄介な発音上の問題がある。ホァーは英語では「WHORE」となり、売春婦のことである。正しくはフォア「FORE」につき、出来る限り下の発音を心がけるべきである。

（12）スプーン（ブラッシー、バッフィー、クリーク）

これらは日本人にだけ残ったウッドクラブの呼称であり、現在では英国でも米国でも3番ウッド（2番、4番、5番ウッド）としか言わない由である。

（13）フォアオン

（14）スリーオン

（15）ツーオン（ワンオン）

これらも和製用語で、英米の人たちには通じない由。僕はパーオンだよという場合は、硬い表現で「アイム・オンザグリーン・レギュレーション」と言うが、簡略に「アイム・オン・インツー」とか言えば十分通用すると教示された。ただし芝講師には叱られそうであるが、仲間うちのプレーではワンオン、ツーオン、スリーオンと言ったほうが簡明で、使いやすくつい口に出る。

（7頁へ続く）

稲門祭のお知らせ

10月24日(日)は稲門祭。年に一度のOB/OGのためのお祭りです。今年は「WASEDA力(早稲田力)」がテーマ。大隈講堂内部改修直前のイベントです。

東京都23区支部など主催の大隈庭園でのテント出店・催しものをはじめ、例年以上に盛大な稲門祭とすべく、各稲門会運営委員が日々知恵を振り絞っています。クルマや海外旅行が当たる福引券も現在販売中。今年こそ、目黒稲門会員が大きな賞品を勝ち取るよう、願っています。

校友会・他区稲門会　交流カレンダー

9月8日(水):総長杯ゴルフ実行委員会
9月11日(土):品川稲門会総会
9月26日(日)第4回オール早稲田囲碁祭
10月1日(金)秋季代議員会
10月24日(日)2004年稲門祭
11月予定:オール早稲田将棋祭

ホームページ立ち上げのお知らせ

この度、目黒稲門会公式ホームページ(以下、目黒HP)が6月23日に立ち上がりました。
URLアドレスは、http://homepage3.nifty.com/me96tomon-waseda/です。是非、ご覧になってください。会員の皆様に日常的に当会の活動のお知らせや、早稲田のトピックなどを、随時お届けできるように務めて参りたいと思います。

目黒HPには、新しい試み(23区初!)として「ブログ」ページを作っています。より多くの情報が速やかにHPに載せられるようにするためです。現在、7つのブログが稼動しています。その中でも、加藤新会長の随筆連載の「会長logbook」は目黒の活発な活動の象徴となっているはずです。最終的には、10個のブログを作成する予定ですので楽しみにお待ちください。会員の方で、発表したい情報、作品(俳句、エッセイなど)がございましたら、是非ご寄稿をお願いいたします。そういう発表の場として活発な交流が出来ましたらより楽しいページになると思います。

先日、HPを通して初めて、ご入会された会員の方がいらっしゃいました。(ようこそおいでくださいました。)喜ばしいことです。これからも、お仲間が増えるのを楽しみに頑張りたいと思います。

また、現会員の皆様にお願いがあります。お差し支えなければ、ご使用のメールアドレスを下記の目黒稲門会アドレス宛にお知らせください。宜しくお願いいたします。

広報ホームページ担当　中西千可子(S51年・一文)
アドレス:meguro-tomonkai@nifty.com

(6頁より続く)

(16)デポット

アイアンショットで削り取られた芝の断片がデポットで、修復する穴はデポットホール、またはデポットマークと言うのはご存じのとおりであるが、逆に取り違えているプレーヤーやゴルフ場関係者が多い。

(17)スライスライン

(18)フックライン

これらも和製用語である。本来スライスとかフックというのは、空中を飛んでいるボールが、回転と空気抵抗で右や左に曲がっていく流体の学的現象である。したがってグリーン上のボールが起伏(引力)や芝目の影響で右や左に曲がっていく現象を、スライスとかフックと言うのは間違いであり、グリーン上にスライスラインとかフックラインというものは存在しない。正しくは右に切れるラインとか左に切れるラインと言うべきであるとのことであった。ただし、芝講師には再び叱られそうであるが、グリーン上でこれらの言葉はこれまで簡明で使いやすく、困ったことになかなか捨てがたいものがある。

なお、芝講師の正しいゴルフ用語を使用すべしとするPRが浸透してきたためか、NHKをはじめ民放各社のゴルフ中継番組の中で、正しい用語を使うアナウンサーが出てきている。テレビ観戦の折には注意して聞かれるのも一興かと思う。

おわり

リレー随想

国勢調査と大隈重信候

(27年・政経)土方　正巳

3年間のシベリア抑留から還り、縁あって総理府統計局(現総務省統計局)に就職しました。初めに配属されたのが、統計局の看板事業である国勢調査を主管する課で、以後、若干の出入りはありましたが、退職するまでの30有余年、専ら国勢調査の企画・実施とその集計業務に携わってきました。退職後も国勢調査員として各回の調査に協力させていただきました。したがって、私の半生は、国勢調査とともに歩んできたといっても過言ではありません。この稿では、わが国の国勢調査の生みの苦しみと、その過程において大隈重信候がどのように関わってきたかを紹介したいと思います。

明治14年、大隈重信参議の建白にもとずき、太政官中に会計検査院と並んで統計院が置かれることになります。大隈参議は、かねがね統計に理解があり、統計院という会計検査院と比肩する厖大な機構を創設するに当たっては、国勢調査を促進しようというねらいがあったものと推測されます。統計院長は大隈参議が兼任し、後に国勢調査の推進に尽力される尾崎行雄や犬養毅など有力な諸氏がメンバーとして加わっております。しかしながら、大隈候は、いくばくもなくして参議を罷め、統計院も廃止され、国勢調査の機運は遠ざかります。

ところが、明治29年において突如として国勢調査を促進する運動が再開されますが、それには理由があります。すなわち、その前年の1895年スイス・ベルンで開かれた国際統計協会の総会において提案された1900年(明治33年)の世界的な世紀センサスへの参加の勧誘が動機となったのであります。これを契機に、官・民から国勢調査実施の機運が盛り上がるとともに、政府においてもそれには統計行政機構の整備が先決であると考え、内閣の一隅にあった統計課を内閣統計局に昇格させ、その陣容も20人から百数十人と相当の規模を構えるようになりました。この機構改革は、明治31年伊藤候に代わって内閣を組織した大隈重信候――かつての統計院院長――の意向によるところ大であって特筆すべき事柄であります。このような政府の統計機構の整備と、民間における有識者の国会への強い働きかけにより、明治35年「国勢調査ニ関スル法律案」が議員提出法案として衆議院並びに貴族院に提出され、それぞれ原案どおり可決成立されます。この法律には第1回国勢調査は明治38年(1905年)に施行する旨が明記してあります。しかしながら、統計事務当局の準備不足と日露戦争による財政上の事情により、第1回国勢調査の実施時期はまたも延期となります。

その後、紆余曲折がありましたが、明治43年(1910年)における諸外国の人口センサスの実施に刺激されて、国勢調査の必要性が民間諸団体、中でも特に各新聞で盛んに強調されるようになり、政府部内でもこれらの世論を無視するわけにはいかず、準備態勢が次第に整ってきます。大正3年10月、全国保険業協会から「速やかに国勢調査を実行せられんこと」を大隈内閣総理大臣に建議し、国勢調査実施の機運が盛り上がってきます。

以上のような経過をたどった末、第1回国勢調査は大正9年(1920年)10月1日を期して全国いっせいに実施される運びとなります。アメリカに遅れること130年、イギリス、フランスに遅れること120年を経過しております。

待ちに待った国勢調査であっただけに「諸外国に遅れるな」を合言葉に、官民上げてその周知徹底を図るために力を入れます。その一端を披露しますと、全国の新聞は連日社説などで国勢調査の重要性と意義を論説し、また代議士など地方名士は各所で演説会を催して調査への協力を呼び掛けています。また各県ごとに国勢調査の県歌を作詞作曲して児童に唄わせたり、都都逸、川柳、ポスターを公募したり、新作落語を寄席で披露したりして、調査のPRに一役買っております。当時の記録をみますと、中央・地方の行政当局はもとより、民間諸団体の国勢調査に取り組む熱意をひしひしと感じます。このような努力が実り、第1回国勢調査は大成功裡に終わることができました。

わが国の国勢調査の結果は、その正確さにおいて世界に誇れるもののひとつであります。しかし最近、統計調査をめぐる環境は、居住関係の複雑化、価値観の多様化、プライバシー意識の高揚などによって悪化しておりますが、国勢調査の結果は国政の基本資料として最も重要のものであることを認識し、先人の残された輝かしい足跡を汚したくないと切に希求する次第です。

次回は、副会長の横山大さんにお願いします。

各部会からのメッセージ

麻雀部会

第9回渋谷、世田谷、目黒3区連合親睦麻雀大会が8月28日(土)渋谷のスリーハンドレットにおいて32名参加して行われ、優勝は横山大、準優勝は土方正巳、3位は山口一男の各氏が入賞し、当区部員が、上位を独占する好成績を納めました。

目黒稲門会主催による第20回麻雀大会は9月23日(木)に、第21回麻雀大会・忘年会は12月19日(日)に、いずれも西小山クラブにおいて開催する予定です。

さらに、第10回3区連合親睦麻雀大会を11月27日(土)に開催することを計画しています。

麻雀部会長　土方正巳

カラオケ部会

新年度4月より毎月開催、多数の参加者を得て楽しく唄っております。

第33回「サンステップ」最終の開催でした。

日時　9月12日(第2日曜日)午後2時30分～午後5時30分

場所　スタジオ「サンステップ」　TEL・FAX　03-5722-4484

第19回～第33回をご使用させて頂き、西岡先生御夫妻大変有り難うございました。

第34回　10月17日(第3日曜日)　午後2時30分～午後5時30分

第35回　11月14日(第2日曜日)　午後2時30分～午後5時30分

場所　「コートダジュール学芸大学店」

目黒区鷹番2-16-18　Kビル　B1F

TEL　03(5773)9488　FAX　03(5773)9478

会費　男性　3,000円　女性　1,000円

※10月17日(第3日曜日)お間違いなきよう(麻雀クラブと抵触のため)

通常第2日曜日を予定しております。

カラオケ部会長　海口昭治　TEL　03−3710−5761

FAX　03−3710−5762

囲碁部会

定例囲碁部会

10月4日(月)　11月10日(水)

下目黒住区センター第一会議室

午後1時～5時

参加費500円

初心者コーナーあります。お気軽にご連絡を!

第4回オール早稲田囲碁祭(団体戦)

9月26日(日)　日本棋院市ヶ谷本院3F

AM10:00～PM5:00

目黒稲門会は2チーム10名編成で参加の予定です。

囲碁部会長　保井　正

TEL&FAX　03-3792-9138

旅行部会

我が旅行部会は大竹前部会長の御尽力により、年2～3回の日帰り旅行を実施してまいりました。緻密な旅行計画と実施により毎回20名前後の安定したファンに支えられております。

はからずも本年4月より不肖私井村がその後を継ぎ、7月の総会にて部会長となりました。4月に目黒区箱根保養所を利用した1泊2日の旅行には17名の参加を得ました。

今後、旅行部会としましては、年2回程度の旅行を定期的に実施したいと考えておりますが、今年については12月上旬に忘年会を兼ねた1泊旅行を予定します。旅行部会単独の実施ではなく、他部会との合同実施を計画したいと思います。

参加しやすい旅行(費用、期間、期日)を目指します。

旅行部会長　井村　正陽

ゴルフ部会

秋のゴルフシーズンが開幕間近です。第15回ゴルフ会は斯界の巨匠井上誠一設計の名門コース鶴舞カントリー倶楽部で10月13日(水)開催致します。

秋の楽しい一日を皆様と共に過ごしたく多数のご参加をお待ちしております。

又今年度の総長杯ゴルフコンペは11月5日(金)おおむらさきゴルフコースで開催することが決定しました。各稲門会より約200名が参加する大コンペで今年度より新趣向をこらした運営を検討しております。参加ご希望の方は9月29日迄に鈴木迄直接お知らせ下さい。

総長杯ゴルフコンペ実行委員会発足

総長杯コンペは校友の懇親と125周年募金のバックアップを目的に校友会と稲門会有志でスタートしましたが、今後の発展と拡大を目指しこの度実行委員会が発足しました。実行委員は東京23区7名、東京三多摩4名、神奈川、千葉、埼玉各1名計14名で目黒稲門会より鈴木ゴルフ部会長がメンバーに加わりました。

美術・歴史鑑賞部会

八幡　和三郎

美術・歴史鑑賞部会は、5月21日(金)に自由が丘の一誠堂美術館で「アール・ヌーヴォーのガラス工芸」の鑑賞会を行いました。

この美術館のオーナー川邉忠俊氏は、目黒稲門会の会員(S31商学部卒)で、長年にわたりエミール・ガレやドーム兄弟などのガラス工藝品を蒐集してきた方です。世の中に美術に親しむ人は多くいますが、自分の美術館を持っている人は少ない。美術に対する情熱と見識に加えて、それを裏付ける経済力がなければ実現不可能だからです。

当日は26名の参加があり盛況でした。先ず川邉氏自らの案内と解説で、展示品の数々を鑑賞しました。引き続き会場を移して、岡部昌幸氏の「世紀末に咲いた大輪の花、アール・ヌ～ヴォーを訪ねる」と題する講演を聞きました。岡部氏は帝京大学の助教授で美術史家ですが、早稲田大学文学部卒の学者です。

目黒稲門会の美術・歴史鑑賞部会は美術や歴史を鑑賞するに止まらず、その知識を深めて、より奥行きのあるものにしようという趣旨で運営しています。その意味でも、この講演は極めて有意義であったと思います。

川邉さん、岡部先生本当に有難うございました。

次回の鑑賞会は、国立近代美術館で開催される「マティス展」を予定しています。マティス(1869−1954)はフランス人。印象派の影響を強く受けた画家で、色彩の美しさが高く評価されています。今回の展覧会には世界各国から集めた150点が展示されます。

10月8日(金)の午前11時に国立近代美術館(JR上野公園口1分)に集合し、鑑賞の後はフランス料理の「ぎんれい」で、昼食をとりながら美術談義に花を咲かそうという趣旨です。　会費は入場料1300円と昼食代2500円の実費です。皆様ぜひご参加ください。

(申し込み先)八幡和三郎

〒152−0021　目黒区東が丘2−15−3−201

FAX　03−3418−8413

eーメール　yahata@mte.biglobe.ne.jp

第3土曜は「三土会」へ

●場所:「鮨八」2階(目黒通り・目黒消防署そば)
TEL:03-3719-2666

●日時:第3土曜　午後6時～9時

●費用:5,000円で飲み放題・食い放題

★連絡先:副幹事長・土川俊雄(03-3794-0396)

編集後記　新会長を囲んで

8月24日、加藤新会長を囲む会が役員16名が参加して開催された。和気藹々の中にも談論風発、各部会の活動をより詳細にHPや会報でPRしていくことで、新規会員の加入を促進し、目黒稲門会の活動を、更に活発にしていこうと申し合わせた。

(編集長:藤岡)

編集委員会:鈴木正明、保井　正、服部尚彦、森家一三、伊藤　悠、土川俊雄、岩崎正夫